



第 1190 回例会報告

平成 22 年 8 月 26 日(木) 晴れ

会長挨拶

会長 長崎政直

委員会について

26期が始まり、2ヶ月が経過しました。当初心配した出席率も、順調に推移しており、クラブ奉仕委員会のご努力に敬意を表するところですし、会員の皆さんにも御礼を述べたいと思います。ありがとうございます。

事業計画立案からこの2ヶ月の間、各委員会が開催され、私も、社会奉仕委員会、国際奉仕委員会、新世代活動委員会、クラブ会報委員会に参加させていただきました。

委員会開催の意義は、既に、皆さん御承知だとは思いますが、確認の意味で、改めてお話させていただきます。

委員会では、委員が集まって、期首の事業計画立案から、具体的な事業の取り組み等が検討され、このプロセスで、課題が共有化され、自己問題へと変化してまいります。

私たちは、当然、過去25年間の経験に頼り、事業を立案し、進めています。多年に渡ってやっている事業は、委員会など開催しなくても、委員長の単独判断で遂行することができます。しかし、経験だけでは、新しい発想や、企画をとり入れることが難しくなります。事業のマンネリ化ということです。参加して一緒に計画を立て、協力して働くことが、自発的活動を産む最良の方法ですし、事業に対して喜びや楽しさを感じれる時でもあります。また、新しく入ってこられたメンバーも、こうした参加によってロータリークラブへの理解が深まるのだと思います。

委員会の後の懇親会は、事業について話し足りなかったことや、再三お話ししている、日頃の悩み、愚痴や、喜びを聴いていただいて、笑われたり、慰められたり、ヨイショされたり、励まされたり、更に楽しい時間です。こうして会員間の親睦が図られていきます。この委員会こそが、そうした会員間の理解を深める最善の機会だと思っ

ています。

無論、忙しい時代ですから、そんなに、ロータリーやっ
てられないということもあるでしょう。でも、それを越える魅力があれば、集まってきます。

クラブ会報委員会ですが、今まで、所属したくない委員会と、どちらかという嫌われて来ました。本年度は、電子化という新しい試みもあってか、既に3回の委員会が開催され、委員長をはじめ、委員の皆さん、誰でも作れるウィークリーをめざし、結構楽しんでやっていたように見えます。

最後に、リーダーシップ論があまたある中で、人間的
魅力や説得力で相手の心を引き寄せ、権限委譲をとま
なう横構造(フラット)の組織のソフト・パワー・リーダ
ーシップが注目されています。対極に、権力を背景にした
アメ(報酬による誘導)とムチ(脅迫的命令)を操作して行
動を引き出す縦(ヒエラルキー)構造のハード・パワー・
リーダーシップがありますが、この両者を複合させるもの
をスマート・パワーというのだそうです。

しかし、ハード・パワーはロータリークラブにはなじみ
ません。特に私には不可能です。ロータリークラブで有効
なリーダーシップは、最初から最後まで、ソフト・パワ
ーと鼓舞型スタイルしかないと思っています。

尚、レターボックスに、リーダーシップ、12の短い
ヒントを入れておきました。興味があったら、参考にし
てください。

■ニコニコ BOX

21名	23,000円
累計	232,676円
目標額	130万円
達成率	17.8%

■出席報告

会員数	35名
出席対象	35名
出席者数	22名
出席率	62.8%
前回修正	85.7%

■今週のこぼ

孫娘が統計グラフコンクール小学生5、6年の部で金賞をもらいました

■次回のプログラム

9月9日
新世代活動委員会
ボーイスカウト、ガール
スカウトをお招きして



◇幹事報告◇

幹事報告

- 以下の文書を受領いたしました。
 - 岡谷 RC ウィークリー
 - 9/10 諏訪湖まちじゅう芸術祭開催案内書
 - 7/30・31 諏訪の長い夜開催後援御礼
 - 9/8 こんにちは県議会です(ふれあいミーティング)諏訪湖の再生をめざして開催案内書
 - 8/29 下諏訪町社会福祉協議会災害救援ボランティアセンター設置訓練の案内
 - 古切手受領通知が(財)ユネスコ協会連盟から送付されました。
- 連絡事項

理事会にて次月例会内容等が決定致しました。Faxにて配布致します。

前回建立したライブプラザマリオ内の諏訪湖 RC 御柱は御柱休め撤去を進めます。

諏訪湖 RC 決算監査に関わる職業会計人として蒲地会員に委託しました。

「ダメゼッタイ」普及運動募金に寄せられた 19,055 円を送金しました。

諏訪分区ローターアクト協力金として 33,000 円を送付しました。

(財)ロータリー米山記念奨学会に普通寄付金として 99,000 円を送付しました。

2600 地区上期資金等に計 412,250 円を送金しました。

10/9・10 ライラの協賛金・登録金に計 46,400 円を送金しました。

11/6・7 地区大会の全員登録・登録金に計 265,000 円を送金しました。

RI 半期会費等として計 858ドルを近日送金致します。

ロータリー情報

職業奉仕委員会 松滞康夫

職業奉仕委員会の今年度の事業の中で 5 回に亘り、例会時にロータリー情報をお知らせする計画になっております。

本日は前回(1186 回)の担当例会に於いて会員増強についてお願い申し上げましたがその補足として、2600 地区の PETS 用の資料について紹介し今後の会員増強の参考にして頂ければと思います。

- ①会員増強の基本理念
- ②会員増強の行動計画
- ③会員勧誘の為の方策
- ④会員維持の為の方策

これらは各クラブの実施している方策例として紹介され

ており、中には誠にユニークな例も記述されておりますのでこれらを参考にし、当クラブとしても新たな施策を立てていく必要を感じております。

尚、前回配布した会員増強の細介依頼書の提出が未だ一件も有りません。最低一名の細介をお願いいたします。

1189回例会報告 社会奉仕委員会

社会奉仕委員長 森山 広

開催趣旨

今年度社会奉仕委員会では大きく6項目の事業計画を立てています。

その中で大きな柱となる三大事業について目標の設定を何処に置くのかを会員に理解してもらうための例会です。

- ①諏訪湖浄化をはじめ環境問題への取り組み
- ②社会福祉の研究について
- ③里山整備事業への参加および検証

を取り上げて具体的に過去からの経緯を知り1年間で何処まで取り組んでいくのかを発表します。

①・諏訪湖浄化をはじめ環境問題への取組み

森山 広

諏訪湖 RC と諏訪湖浄化活動の概略史

諏訪湖 RC としては 5 期頃より浄化運動を行い始めた。

8 期(1992 年)には有志による諏訪湖浄化基金が集まる

9 期(1993 年)溝口幸二会長

諏訪湖浄化をはじめ 8 年間掲げてきた目標の更なる実現に努力をしよう。

10 期(1994 年)10 周年 尾上正弘会長

創立会長の「諏訪湖を心の鏡として奉仕の誠を尽くそう」の創立時の原点に戻り新たな出発点としたい。

15 期(1999 年)15 周年 岩村亀夫会長

諏訪湖浄化の住民の感性に訴えるべく諏訪人のふるさと母なる諏訪湖に捧げる「水のコンサート」を湖浄連と合同で行う。

平成 11 年 12 月 12 日 下諏訪文化センター。多くの聴衆に感動を与える。テレビでも放映される。

16 期(2000 年)近江誠一会長

諏訪湖浄化委員会を他の委員会と異なり数年間継続して同じ委員によって構成する。

諏訪湖浄化のメカニズムの解析と浄化運動を全体的・系統的に捉え諏訪湖 RC の位置づけるかを探りさらに浄化基金をどう活用していくかを提案するためで単年度で仕上げるのが難しいため。

多くの具体的な活動はなされたが本来の主旨ではうまく取り組めなかった。

17 期(2001 年)濱正一会長

「諏訪湖アダプトプログラム」開始

ボーイスカウト&ガールスカウト合同事業

諏訪湖クリーン祭 手作りいかだで参加 準優勝

18 期(2002 年)大澤邦彦会長

アダプトプログラムは諏訪湖 RC 挙げての大きな事業
ロータリー活動に苦痛があってはならないとの考えから、小さな奉仕活動への積極的。参加一楽しいロータリー活動

諏訪湖浄化を湖浄連・ボーイスカウト・ガールスカウト等対外的な関係について大切にす。

19 期(2003 年)小林強会長

成熟期の 19 期 諏訪湖浄化を中心とした社会奉仕活動に一丸となって取り組む

諏訪湖浄化の今後の課題として里山保全、里山活性化を考える

花里先生「諏訪湖浄化の前進」、沖野先生「諏訪湖の現状と課題」などの講演を聞く

20 期(2004 年)渡辺芳紀会長

諏訪湖浄化連絡協議会の発足

諏訪湖浄化活動の一環として里山事業の継続(拡大)奉仕は誰かの為でなく、誰かに言われたからで無く、自分が自分の為で手弁当で行うものとの考えを示す

21 期(2005 年)小松孝弘会長

水保全・地球環境関連「山から湖までを考える」

下諏訪中学との協働参画事業、ブナの植林などが始まる

会員の英知を結集して長期的な展望に基づき継続性を保ちつつ活発に実行する

22 期(2006 年)林洋三会長

里山協働作業、ブナの植樹事業、地区より補助金を得る

活動パネルが地区大会で展示など、地区内で大きな反響を呼び資料提供をする。

23 期(2007 年)小林聖仁会長

早朝湖岸清掃が活発に行われる

下諏訪中学校などが長時間を支援。

里山協働作業を通じ、山から里へ・諏訪湖浄化を考える

24 期(2008 年)高林一紀会長

下諏訪中学校協働事業が発展。

外来魚駆除、諏訪湖湖上水質検査などを協働事業として実施

25 期(2009 年)松澤 康夫会長

下諏訪中学校協働事業、外来魚駆除、湖岸清掃の継

続

今後の浄化目標はいかに？

・諏訪湖ロータリークラブが目指すものは？

・地域住民が目指すものは？

・各種団体が目指すものは？

行き着く先はなんなのか？ 景観なのか？ 環境なのか？ 生態系なのか？ 水なのか？

諏訪湖未来創造構想の検討

・今までの検証と新たな再構築

1. 諏訪湖 RC としての方向性

2. 各団体との話し合い

諏訪湖に対する将来ビジョンを聴く

・もっと恐ろしい諏訪湖の問題点 100 年先には諏訪湖が消える

・夢を託した新しい諏訪湖の活用法淡水真珠・諏訪湖大橋

諏訪湖ロータリークラブの宿命

・この諏訪湖がある限り諏訪湖ロータリークラブが存在する。クラブ創設の源泉であるから・・・

②社会福祉の研究について

高山 巖

テーマが広すぎて研究内容を絞り切れていませんが、まずは“福祉事業の現況”としてケアサービス会社の代表者に宅話を依頼してみようと考えています。福祉を、奉仕事業としてとらえるのか奉仕を受ける身として考えるのかを含めて、会員諸氏からアンケートをいただいで研究の基にします。

③里山整備事業への参加および検証

小林 強

ロータリーが社会奉仕を始めたのは 1907 年シカゴ・クラブが創立 3 年目の事でありますシカゴ中心街にトイレがなく不便だと聞き、社会奉仕活動を実践する好機と捉えました。早速、25 の市民団体の代表を集め公衆便所建設委員会を設立し、行政に働き掛けました。

デパートやシカゴ醸造組合の抵抗にあい 2 年の歳月を掛かりましたが 1909 年に二つの公衆便所が完成しました。多くの会員はシカゴ・クラブが実施したプロジェクトだと思いますが、建設委員会が行政より 20,000 ドルの補助金を受け市の土地に完成したもので、単に事業費を拠出した奉仕活動ではない事を念頭に置いて下さい。

地域社会が必要とする重要なプロジェクトは、広く地域住民や行政或いは受益者、更に協賛者に費用を負担して頂くと考えれば、会費の範囲で立てる計画と大きな様変わりになります。30 周年に向かい新たな事業展開をしようとする本年度、過去の事業を検証する機会を持ち、

改めて会員の総意に基づく計画づくりに着手したいと考えました。

クラブの長期計画を考える時に考慮しなければならない事に、「決議 23-34」を一度確認する必要があります。ロータリーの奉仕はクラブが一塊となって行動するだけで足りる様な事業よりも、広くすべてのロータリアンの個々の力を動員するものの方がロータリーの精神に叶っていると云える。一方、ロータリー・クラブでの社会奉仕活動はロータリアンに奉仕の訓練を施す為と考えられたいわば研究室の実験とこれを見るべきである。」と書いてあります。この方針に従うとすれば、サンプル実験を何度となく続けて行くのか、その後会員が一斉に行動を起こすか、或いはその事業を他団体に移行するかを検討する必要があります。更にその内容が地域住民の要望に沿ったものか、或いは地域にとって重要な内容となっているかを正しく判断しなければ長期計画を立てることが出来ません。

当クラブは今日迄、会費の範囲でのプロジェクトしか考えて来ませんでした。研究室の実験であった為にやむを得ませんでした。サンプルとしてその役割を果たして来たのか検証しなければと思います。会員がサンプルに沿って一斉に奉仕活動を推進するプロジェクトも一考に値すると思います。

7年前に岩村会員の林にブナの苗木を植えた時は、下諏訪の山にブナの木が育つか解りませんでした。近くにブナの木が在ったことから育つことを想定はしていたもの、確信まではありませんでした。ブナの木は見事育ち、種々の苗木も育ち、水源地の山の整備は可能と証明されたものと考えます。この活動を地域に広める計画を立てるか、今まで通り生徒達と少しずつ植えて行くかも検討したいと思います。

7年前に始めた事業が何時の間に里山整備と云われる事業に名称が変わっておりますが、名実と共に里山整備事業を始める事も検討します。創立以来諏訪湖浄化活動をクラブの重点事業として数々の事業をして来ました。諏訪湖を綺麗にするには流入河川が常に清流である事が必要であり、その為に山の整備と考え計画されたのがブナの植林でした。水源や山の整備が諏訪湖浄化に重要である事は云うまでもありませんがロータリーだけで続けても目的は達成されません。地域の人たちが地域の問題として捉え、行動を起こして初めて目的が達成されるのではないのでしょうか。

ここ数年諏訪地区や全国各地、更に世界各国で洪水や土砂災害が頻発しております。

ゲリラ豪雨は予測や緊急の対策は不可能と思われれます。森林には災害を防ぐ大きな役割もあります。岡谷、諏訪地区では2006年と昨年ゲリラ豪雨により大きな災害が発生しました。一時間に100mmと云う大雨が4年間に2度発生

しました。昨年の豪雨は特に山の向こう側にも大きな被害が出ました。森林整備と砂防ダムがなければ、私の生まれた後山地区は全て流失していたと云われております。私の住む南真志野生産森林組合は所有する森林を僅かな補助金で長年整備を続けてきました。2006年と昨年の豪雨の際、整備された森林の倒木や土砂の流出は全くなく、大災害を防ぐ結果となりました。付近の未整備の森林は山の形が変わってしまう程の崩壊がありました。その土砂が後山を救ったのが砂防堰堤でもありました。道路や河川、田畑の崩壊は至る所で発生し未だに完全復旧はしておりません。あの様な豪雨が何時下諏訪周辺を襲うか解りません。

森林の整備と云っても余り難しい事をする訳ではありません。個人の所有林、団体の所有林、神社等の所有林を一塊の区域まとめ、最低面積1haを一つの単位として、市町村を通じて地方事務所に申請します。事業費の99%は市町村と県、国の補助金で賄うことが出来所有者の負担は僅かで済みます。間伐には2種類あり、切り倒すだけの切り捨て間伐、枝を落とし幹を一定の長さに切り流出を防ぐ玉切り間伐であります。

間伐を行えば地面に日の光が届く様になります。地面に草や低灌木が生え土が見えなくなります。樹木は根が張り倒木を防ぎ地表の草木が土砂の流失を防ぎます。

この状況はきれいな水を蓄える為にも大きな役割を果たすことにもなります。

この事業が諏訪湖を取り巻く山々一帯に広がり各市町村が取り組みば諏訪湖浄化と安全な街づくりに貢献できることとなります。本来行政が指導して行う事業ですが、各地区の役員の任期は1年であり、多少手が掛かることもあり災害が発生した地区しか始めておりません。この事業の実施主体は市町村、森林組合、NPO法人等ですが、最も大変な部分は森林所有者を集め了解を取る部分であります。里山に近い岩村さんの森林の1帯個人所有者等数名が了解し1haになれば事業はスタートします。最初の実施する地域は住民の目に留まる箇所が効果的であり、整備された森林を見れば次々と実施が可能となります。

ロータリーは提言を行い、多少の援助をすることにより里山の整備が広がれば、猿や鹿或いは猪、熊等の被害も少なくなり多くの効果が期待できます。

継続する事業は基本的に他の団体に任せて、必要な事業を提案し協賛する組織を開発すべきと思います。里山整備と云われる事業に取り組みか否かは会員の総意で決めるべきと考え例会を通じて意見の集約を図りたいと思います。

最後にこの25年間に実施された事業が地域にどのような影響を与え、どのような効果が在ったかを合わせて担当例会で検証していきます。